平成２５年度（第１７回）

熊本市中学生による

子ども議会

と　き　平成２５年８月６日（火）午後１時３０分
ところ　熊 本 市 議 会 議 場

議　事　次　第

○　　市議会議長あいさつ
○　　子ども議会議長選出
○　　開会
○　　子ども議会副議長選出

議　事　日　程

第一　　市長施政方針演説
第二　　一般質問

１　災害等での人と人との関わりについて　【第１班】
（１）備蓄倉庫の設置について
（２）人の命を救うための取り組みについて

２　くまもと・わくわく基金と学校における教育相談について　【第２班】
（１）くまもと・わくわく基金について
（２）スクールカウンセラーや心のサポート相談員の活用について

３　ジュニアヘルパーの活用と障がい者への理解について　【第３班】
（１）ジュニアヘルパーの活用について
（２）障がい者への理解について

４　ごみ減量の啓発と地下水保全のための節水の取り組みについて　【第４班】
（１）ごみ減量の啓発について
（２）地下水保全のための節水の取り組みについて

５　農業の後継者不足と観光客の誘致について　【第５班】
（１）農業の後継者不足について
（２）観光客誘致のための「しろめぐりん」の活用について

６　熊本駅周辺の開発と公共交通機関の利用促進について　【第６班】
（１）熊本駅周辺の開発について
（２）パークアンドライドの利用促進について

○　　閉会
○　　市議会副議長あいさつ

平成２５年度（第１７回）熊本市中学生による子ども議会

１ 目　的　子どもたちの市政に対する意見を聞くとともに、次代を担う子どもたちが熊本のくらしや未来について語り合い、市民としての意識を高める。

２ 主　催　熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会

３ 参加者　熊本市内の中学生　５２人
熊本市立中学校４２校から４２人
私立中学校８校から８人
熊本大学教育学部附属中学校から１人
熊本県立熊本聾学校から１人

H25年度　子ども議員

４ 内　容　研修会①　７月２６日（金）　9:30～16:30　市議会について、質問作り
研修会②　７月３０日（火）　9:30～16:30　質問完成、リハーサル
本会議当日　８月　６日（火）　9:30～12:00　リハーサル
13:30～15:30　本会議

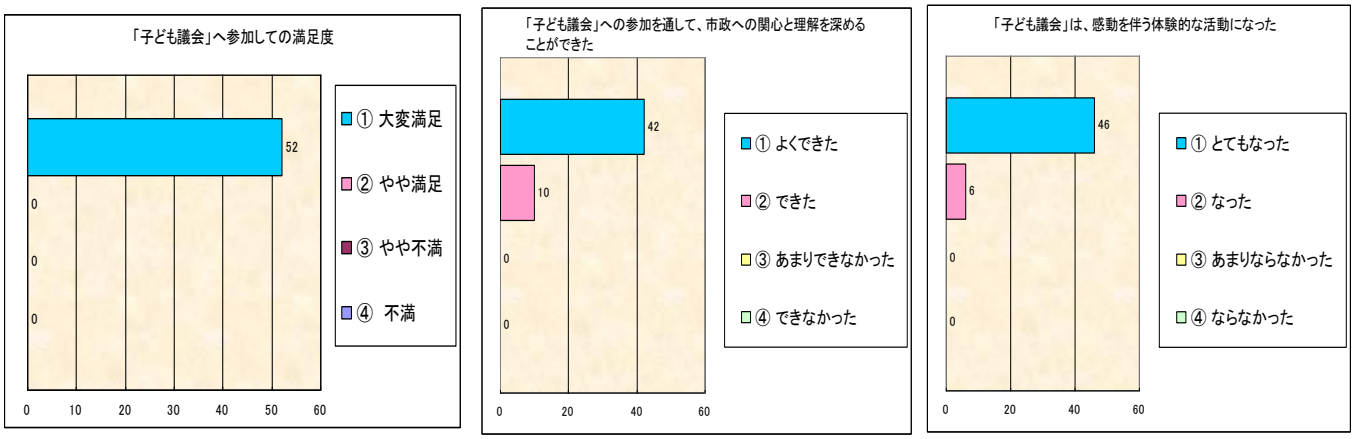
議会常任委員会分野ごとに６班（各班８～９人）を編成し、市政に対する要望・課題・疑問について焦点化を行い、改善案や提案事項を話し合い、質問案を作成し、本会議において質問をする。

５ 参加者の感想

- 議会場で緊張する空気の中、自分たちの意見を言えたことはとても良い経験になりました。今回のことを、学校の生徒会活動などで生かしていきたいと思います。
- 自分たちで練り上げた質問に、市長さんや局長さんたちが真剣に答えてくださり、貴重な経験をさせてもらった。普段はあまり考えない市政について深く知ることができてよかった。
- 大人になってからも市政を深く考えて、自分の意見をもつようにしたい。また、中学校生活では話し合いのまとめ方を工夫し、意見をたくさん出すようにしていきたい。
- 熊本市の素晴らしいところをたくさん知った。今後進化する熊本市にワクワクする。
- 他の中学生がどのような意見をもっているのかを知ることができ、これからの熊本市、社会は私たちが担っていかなければならないという自覚を改めてもつことができた。

（高校生の感想より）

- 中学生が具体的な意見をはっきりと出していてすごいと感じた。
- 熊本の未来、そして私たちの未来につながる市政をこれから真剣に見つめていきたい。



子ども議会終了後の子ども議員へのアンケート調査より

平成25年度（第17回）熊本市中学生による子ども議会　質問・答弁概要

	質問項目	質問内容	答弁概要	担当局
1班	災害等での人と人との関わりについて	市内のすべての小中学校に備蓄倉庫を設置し、食料や日用品等を備蓄してはどうか。	○防災対策について、避難を中心とした「減災」の取組として、市民に、いち早く災害情報を提供するため、防災行政無線の再整備やサイレンの設置、「緊急告知ラジオ」の提供、災害情報のメール発信などを行っており、また、円滑な避難行動ができるよう、地域版ハザードマップ作成を推進するなど、「災害に強い街づくり」に取り組んでいる。 ○備蓄倉庫については、これまで西区と北区の54箇所の学校等に設置しており、本年度は中央区、東区、南区の93箇所の学校等の避難所に、避難生活に必要な物資（非常食、救急セット、懐中電灯等）を備蓄することとしている。	総務局 （市長答弁）
		中学生を対象とした、AEDの使い方や心肺蘇生法などを学ぶ講習会はどのようなものが行われているか。 また、中学生向けの救命イベントを企画できないか。	○一般市民によるAEDを含む応急手当は非常に重要であり、現在消防局において、心肺蘇生など緊急時の対応ができる人材の育成に取り組んでいる。 ○中学生を対象とした講習については、中学校の授業の一環として救急講習に取り組むほか、消防局でのナイストライ事業の中で実技指導を含む救急講習を実施している。 ○中学生が興味をもって取り組めるような救命のイベントについては、9月に心肺蘇生法やAEDの使用法などを学ぶ「～もしものために～救急・防災教室」を開催予定である。 ○また、部活動やサークル等の集まりにおいてAEDを含む応急手当について学びたいという要望があれば、インストラクターを派遣し指導を行いたい。	消防局 （消防局長答弁）
2班	くまもと・わくわく基金と、学校における教育相談について	イベントでの募金活動や学校への出前講座等を行い、くまもと・わくわく基金のことをPRしてはどうか。	○くまもと・わくわく基金は、社会や地域の課題解決に向け、様々な活動に取り組んでおられるNPOやボランティア団体の活動を、市民が支え応援するという制度として平成24年4月に設置した。これまでに、42件、4,180,330円の寄附をいただき、合計17団体に対し活動費の助成を行っている。 ○イベントでの募金活動は、誰もが自分の負担できる範囲で気軽に貢献できる方法として有意義であり、今後実施したい。 ○中学校への出前講座の実施については、中学生に制度を知ってもらい応援者となってもらうためにも検討したい。 ○今後も、情報誌やホームページなどを活用し、活動内容が市民に分かりやすく伝わるよう周知広報に努力する。	企画振興局 （市長答弁）
		教育相談の周知のため、スクールカウンセラー等に専用の名札の着用を行ったり、スクールカウンセラー等による講話の機会を作ってはどうか。	○いじめや不登校の解決においては、身近なところで気軽に安心して相談できることが重要であることから、本年度は、21の拠点中学校にスクールカウンセラーを配置し、その他の中学校には、心のサポート相談員を配置することで、すべての中学校を対象に相談対応ができる体制を整えたところである。 ○スクールカウンセラーや心のサポート相談員専用の名札の着用については、相談員が身近にいることを知ってもらう効果的な方法であり、実施を検討するよう、学校に指導する。 ○学年集会等で、心の悩みの解決方法や友達とのかかわり方などについて直接話を聞くことは、とても役に立つことであり、校長会などの機会を捉え学校に提案する。	教育委員会事務局 （教育長答弁）
3班	ジュニアヘルパーの活用と、障がい者への理解について	ジュニアヘルパーの活動参加者数を増やすために、どのようなことを考えているか。	○ジュニアヘルパー事業は、ひとり暮らし高齢者の孤立化防止の他、中学卒業後に高校生ボランティアとして活動の輪が広がる意味でも成果があり、平成23年12月に10中学校、約260人でスタートし、現在28中学校、約600人が登録している。 ○これまでは、中学校ごとに説明を行い、協力を得られた中学校から順に登録手続きを行ってきたが、今後は更にジュニアヘルパーを増やす観点から、テレビなどの市政広報番組を通じた周知を行っていくこととする。	健康福祉子ども局 （健康福祉子ども局長答弁）
		障がい者への理解について、今後どのような方法で啓発活動を行っていくか。	○障がい者への理解促進を図るためには、障がい者の種類や特性について、正しい知識を得られる機会の提供が必要であると考えており、夏休み期間に障がい児を預かる「サマーほっとクラブ」の開催や、ポスターや作文の募集・表彰・展示のほか、地域での障がいに関する説明会等を実施している。 ○今後は、障がいの特性や配慮事項等についても、市政だより等各種広報媒体を活用しながら効果的に発信していく。 ○また、障がい者への理解、関心を広げるには、持続的・継続的な取組が必要と考えており、今年度「障がい者サポーター制度」を創設予定。研修会への参加や実践活動の普及等を予定しており、12月の発足に向けて関係団体等に呼び掛けを行っている。	健康福祉子ども局 （市長答弁）

	質問項目	質問内容	答弁概要	担当局
4班	ごみ減量の啓発と地下水保全のための節水の取り組みについて	ごみ減量に向けて、分かりやすいポスター作成や、テレビなどで広報等を工夫してはどうか。	○本市では、「熊本市ごみ処理基本計画」を策定し、平成32年度までに家庭ごみの排出量を、平成21年度比20%減量を目標として、ごみの減量や分別、リサイクルの推進、ポイ捨て禁止などについて広報・啓発を行っている。 ○小中学生を対象とした取組としては、ごみ減量啓発ポスターコンクールを実施し、中学生の部の金賞作品について「ごみ減量・リサイクル推進週間」の啓発用ポスターとして採用している。 ○また、昨年はごみの減量に繋がる「生ごみのひとしぼり」をテーマにCMを製作し、若者の視聴が得られる時間帯での放送を行った。 ○今後も、若い世代への広報・啓発が重要であり、情報誌、啓発イベント、ホームページ等を活用し、より効果的な広報啓発に取り組んでいくこととする。	環境局 （環境局長答弁）
		各家庭・学校に、節水をよびかける耐水性のシールを再度配付してほしい。また、節水意識が高まる効果的なCMを作ってはどうか。	○本市は、「世界水の日」である本年3月22日に、国連”生命の水”最優秀賞を受賞した。その地下水を守るため、7月・8月の2ヶ月間を「夏季の節水重点期間」として、市民1人1日あたりの生活用水使用量230リットルを目標に取り組んでいるところである。 ○節水啓発用シールについては、イベント等で配布しているが、中学校における節水行動を支援することを目的に、全校に節水啓発シールを配付したい。 ○また、テレビCMについては「節水に関するキャッチフレーズ」などを活用するとともに、より多くの人に見てもらえる時間帯に放送するなど、より印象的で、市民に共感を持ってもらえるような内容になるよう考えたい。	環境局 （市長答弁）
5班	農業の後継者不足と、観光客の誘致について	農業就業人口を増やすための対策はあるか。	○現在、本市においても農業従事者の高齢化が進んでおり、新規就農者の確保及び、育成が重要な問題となっている。 ○本市では農業後継者が安心して農業に取り組めるよう、土づくりや栽培技術の指導をはじめ、強風にも耐えるビニールハウスの整備や、選別システムの導入などによる高品質な農産物の生産を支援し、所得の安定を促進している。 ○また、新規就農促進に向け、青年就農給付金の活用、農業協同組合などと連携し、農地の紹介や技術取得のための研修会の開催などを行っている。 ○今後は、就農者への支援制度の紹介や、相談体制の充実を図るとともに、農業の法人化や農産物を加工し付加価値を高める6次産業化の推進など、安定的な経営ができる環境づくりにも取り組みたい。	農水商工局 （市長答弁）
		観光客を増やす取り組みとして、「しろめぐりん」を使ったスタンプラリーをとり入れたらどうか。	○観光客増加に向けた取組については、新幹線沿線都市における観光プロモーションの強化を図るとともに、観光客が快適に熊本の観光を行えるよう、観光案内サインの整備や「おもてなし武将隊」によるおもてなしの向上、さらに、個人旅行者をターゲットとしたインターネット等を活用したリアルタイムでの観光情報の発信を行っている。 ○また、19箇所の観光施設を格安で利用できる「満遊パスポート」や公共交通機関を何度も利用できる「1日乗車券」を販売し、観光客の利便性の向上を図っている。 ○「しろめぐりん」を活用したスタンプラリーについては、利用者の回遊性の向上にも繋がることから実現に向けて検討したい。	観光文化交流局 （観光文化交流局長答弁）
6班	熊本駅周辺の開発と、公共交通機関の利用促進について	熊本駅前をイベントが開催できる広場にしたり、交通センターのような仕組みを熊本駅に作ってはどうか。	○駅前広場は、平成30年の在来線の高架化事業完成後には現在の1.7倍の広さとなることから、他都市で行われているような、祭りやコンサート、クリスマスのイルミネーションなど、四季折々のイベント等が実施できる空間にしていきたいと考えている。 ○更に、熊本の陸の玄関口にふさわしく、明るく楽しい、そして、賑わい創出に繋がるような整備を進めていきたい。 ○それにあわせ、駅前広場内にバスターミナルを整備し、バス乗り場を分かりやすく集約することや、市電を駅舎に乗り入れることも検討しており、バス・タクシー・市電との結節性の高い交通ターミナルとして整備していく予定である。	都市建設局 （市長答弁）
		交通渋滞の緩和と公共交通機関の利用促進のために、パークアンドライドの駐車場を増やしてはどうか。	○本市では、平成24年3月に「熊本市公共交通グランドデザイン」を策定し、本年4月には「熊本市公共交通基本条例」を施行し、公共交通機関の維持充実に取り組んでいる。 ○パークアンドライドについては、熊本都市圏においても各バス会社の車庫や電車駅の隣接地、大型ショッピングセンターの駐車場など10箇所、延べ546台分の駐車場を整備しており、関係機関と連携しながら、その利用促進に取り組んでいるが、利用率がほぼ100%の駐車場がある一方、10%程しか利用されていない駐車場もあり、更なる取り組みが必要と考えている。 ○パークアンドライドの促進においては、自家用車から公共交通へのスムーズな乗り換えが可能な路線バスの始発地点、JRや電車の駅の周辺などに整備することが効果的であるため、駐車場用地の確保ができるかを見極めながら、関係者と連携し、積極的に取り組んでいきたい。	都市建設局 （都市建設局長答弁）